

閑話休題

玉水橋物語

昭和19年卒 牧野 鐵 五 郎

昭和27年(1952)航空再開の年、日本学生航空連盟関西支部の最初の合宿訓練が京都府玉水の河川敷で開かれた。

もともと玉水は戦前から大日本飛行協会が滑空場として利用していたところで、昭和16年ころ玉水には滑空機が何機か入る格納庫と学生の合宿所があった。

格納庫の跡は建物の基礎部分が昭和27年航空再開のころはまだ有ったが宿舎の方は学校になっていたように思う。

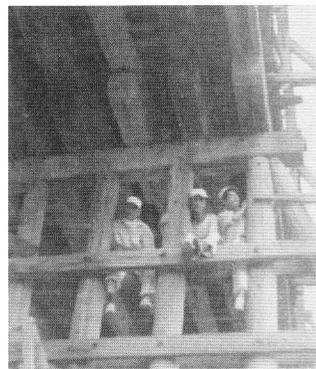
木津川を渡る木製の大きな橋は、昭和27年ころでも珍しく、活動写真のロケ地としてしばしば使

われていた。合宿中に覆面のお侍サンが馬に乗ってパカパカと土煙を上げて橋を渡るシーンも何回も見たことがある。撮影のために訓練を中断したこともあった。鞍馬天狗のおじさんがバツ、バツと悪者を切り捨てている後に滑空機が飛んでいたのでは全てが台無しになること請け合いです。だから助監督サンがペコペコ頭を下げて、「ワンカットだけですから飛ぶのをやめてください」と泣かんばかりに頼みに来たのだろう。

その後コンクリートの橋に架け替えられたがその姿は味も素っ気も無い橋だった。



▲1953年の玉水橋と滑空場 写真は当時松下電器から学連へ光2.2型セカンダリーが贈呈され、その引渡し式の様子である。



▲休憩時間に橋桁に登って はしゃぐ学生達(1953年)



▲現在の玉水橋 滑空場のあった位置に川の流れが移動している。



▲1960年当時の宿舎「中坊旅館」は往時の姿で現存している。

関東支部忘年会

2008年12月5日 “銀座がんこ”



■ 久しぶりに会えた皆さんとの思い出話に大いに盛り上がり、何時もながらの、鳥田・豊浦両先輩の掛け合い漫談は、周りの皆をなごませ、楽しませてくれました。関東支部は平成卒の若手がなかなか参加できず、森川監督が若手(?)を代表し、孤軍奮闘しておりましたが、今回は新庄・松田両氏の参加で平均年齢を若返らせてくれました。

今回は本部から75周年記念事業実行委員会の新庄委員長に参加頂きました。

先輩諸氏の勝手な意見、意地悪質問に丁寧に対応している姿を見て、「なかなかやるなあ〜！」と感じ、「次世代も立派に頑張ってるじゃん！」と、ふと安堵感を覚えました。

(山田 洸史 記)

写真は後列左から 松田 剛・宮原 幸春・中村 洋一郎・内田正人・阿部 克己
森川 泰・知野 進一
中列左から 新庄 博志・山田 裕章・末吉 武二・鳥田 一英
前列左から 山上 皓太郎・梶田 英之・樺島 紳一郎・豊浦 順真
山田 洸史 (敬称略)